

奨励賞

愛は人生だ！

—『100万回生きたねこ』の本を読んだ感想

金 学敏

はこのねこと白いねこと子猫たちは全部は絵にのっていませんが花と家があります。この絵はどう言う意味なんだろう。価値があるすばらしい人生だと思います。でもどんな人生に価値があるのでしょうか。

私は日本語を10ヶ月前から勉強しています。佐野洋子さんの「100万回生きたねこ」という絵本は私が初めて読んだ日本語の絵本です。この絵本ははんぶんは文字です。はんぶんはきれいな絵です。私は日本語が上手ではありませんが、絵があるので佐野さんの文字の意味が理解できました。

100万回生きたねこはいつもほかのひとにかわれていて自由がありません。例えば飼い主が泥棒のとき自分はいたくないのに盗みをしました。飼い主が船のりるときは一緒に世界を航海しました。でも猫はどこにもいきたくなかったです。

私はこの絵本には人生の意味について書いてあると思いました。

100万回生きたねこは誰のねこでもないときは自由にいきられて幸せだったと思ったはずです。幸せな人生だなと思ったはずです。

“ねこはもうけっしていきかえりませんでした”絵に

100万回生きたねこは白いねこがすきだったときいき
ている価値があります。たのしかったと思います。それ
から「回生きて」「回死ぬのはいいいと思います。

愛の意味はなんですか。

王さまはねこがすきなのでねこが死んだときせんそう
をやめておしろにかえってきました。王さまはねこを愛
していたのです。

船のりはねこが死ぬときおおきなこえでなきました。

船のりはねこを愛していたのです。

おばあさんはねこが死ぬとき一日じゅうなきました。

おばあさんもねこを愛していたのです。

でも王さまと船のりとおばあさんはねこはなにがすき
かとぜんぜん思いませんでした。このねこはかれたちが
すきではありませんでした。だから“死ぬのなんかへい
きだったのです。”

愛の意味は他の人たちを思いやる気持ちだと思います。

佐野洋子さんの「100万回生きたねこ」絵本は子供の
本と、大人の本です。私はこの本を読んで勉強になりま
した。みんなも読んだ方がいいです。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

金さんは、日本語を学び始めてから10ヶ月だそうですね。10ヶ
月で、絵本から感じた微妙な感情や思いを、このように文章で表
現できるのは、すばらしい才能だと思います。

もちろん、ぎくしゃくした表現のところも、いくつかあります。

それでも、金さんがどのように感じたり考えたりしているかは、よく伝わってきます。

この絵本のテーマは、「愛とは何か」という問いですね。金さんは、愛とは「他の人たちを思いやる気持だ」ととらえています。

王さまも船のりもおばあさんも、ねこを愛していると思っていたのでしょうか、ねこの真の心を思いやることはしなかった。だから、本当の意味で愛していたわけではないというのですね。その通りだと、私も思います。

ねこは、自分の本当の心を理解してもらえないから、傲慢にならざるを得なかったのですね。本当の愛を持てないときには、本当のいのちを生きているのではないから、死んでも本当に死んだことにならない。しかし、白ねこと本当に愛し合えたとき、はじめて本当のいのちを生きられたから、今度は本当に死んで、二度と生き返らなかったのですね。

子どももこの絵本が好きですね。でも、大人が読むと、いのち

と愛と死について、深いことを語っていることがわかってきます。

金さんは、そのこともしっかりと理解していることが、最後に書かれています。その読解力に感心しました。